



あの日から、早くも十三年目を迎えました。冬は、身が凍るほど寒い空のなか、記念館での座り込み。全国各地のメーデーをおとすれは、馴れない言葉での支援要請。九月にはまたCO患者の永野利男さんと九・二八CO患者の松本忠義さんが、というように、五つのカンパ活動。

私達は一文の金も要らない、ただ主人たちの命を返せ！ ただ患者に元の体を返せ！

ここに怒りを新たに、三池大災害裁判原告団を代表して、皆さんの前に決意を表明させていただきます。

三井鉱山の重大な保安サボによって、一瞬のうちに四百五十八名の労働者の命が奪われ、八百三十名もの仲間が、COガスのため脳細胞を毒され、かけがえのない体を無残に痛めつけられてしまいました。

一家の大黒柱である、夫や息子、大きな幼児と化してしまつたCO患者をかえ、病院と家庭との二重生活に追ひまわられてきた家族。果てしない悲しみと苦しみに、たぎる怒りをもつて刻まれてまいりました過去の十三年は、そのままが、加害者・三井鉱山に対する闘いの日々をすごしてきました。

夏夏の日々、本社の会議室

あの日から、早くも十三年目を迎えました。冬は、身が凍るほど寒い空のなか、記念館での座り込み。全国各地のメーデーをおとすれは、馴れない言葉での支援要請。九月にはまたCO患者の永野利男さんと九・二八CO患者の松本忠義さんが、というように、五つのカンパ活動。

それどころか加害者である三井鉱山は、かえって責任のなげに狂奔し、被災者の遺族やCO患者の闘いに血まなこになつていき、マツ殺に血まなこになつていき、一方各々の坑内現場では、依然として人命無視の合理化を強行しつづけ、いまも働く仲間の命を奪っているのです。この十三年の間に八百八名の仲間が命を奪われ、一万四千四十三名の被害者、三井鉱山に

不思議な不思議な呉比証言

九月十七日、福岡地裁で開廷された三池大災害裁判第十六回公判での呉比長司・元三井鉱山長の証言は、不思議な証言にであつたことはいふまでもない。彼の証言内容はいふに、「三井鉱山の坑底はもともと地質上からも爆発などが起きるはずがなく、そのうえ、当時の法律も規則もはるかに厳格で、万全の保安対策を実施していた」といふことである。

事実彼の証言とはまったく裏ハラに、あの斜坑道には爆発限界以上の炭じんが堆積していたことを知らぬ労働者はいない。起るべくして起きた爆発であることは、当時をふりかえりさえすればまぎれもない事実。呉比元三井鉱山長は、こんどの証言によつて、絶対に許し難い人道上の罪を二度重ねたことになる。覚えておくがよい。

なお、彼はあの爆発後の同年十一月本店生産部々長付となり、以後、同副部長一取締役一砂川鉱業所々長一本店技術室々長一有明炭坑常務取締役を経て、現在同社取締役の席にある。参考のため紹介しておく。

砂岩層に加え 水まで含む

問 い 三池の各坑はほかの炭坑と比較し、自然条件でどのような特徴があるか。

答 え 炭層の上下の岩盤が砂岩という堅い岩盤ででき、砂岩層はあまり乱れてなく、そのため粉化されてくる部分が少ないことが申しあげられます。それから坑内出水が多くなり、砂岩層はかなりの水を含んでおり、石炭のなかに含まれておる水分も多くなつて、炭じんの発生は少いといえます。

第一斜坑の保安対策は十分

問 い 三井鉱山の第一斜坑(爆発をひき起こした坑道)には、新しい技術を導入してありますか。

答 え 右半分には流水路がまんまかに隔壁が設けられています。

問 い 流水路の効用はどのようなのですか。

答 え ここへ落ちた粉炭などが塊炭だが、炭じんなどは、斜坑の傾斜が約十一度五分を過ぎますので、水で下の方へ流されていくと同時に流れない塊炭などは流れる水によつて潤滑されて、ベタベタした格好になつておられます。

問 い それから隔壁は、どのような効用をもつておられますか。

答 え 水が軌道の方へ流れ込まないよう、ベルトから落ちる石炭が軌道の方に落ちてまなびように防ぎ、またベルトコンベアの保護をいたしまして、衝撃を緩和することができま

問 い 第一斜坑で、炭じんが発生する可能性があるのはどこでしょうか。

答 え ヘルトのうえの原炭水がまるといふやり方で

それでも爆発は起きた 「万全だった」とは何ごとだ

問 い 証人自身爆発後、あつたのは爆発前後、送炭ベルト上の原炭の付着水分を確認したことはありますか。

答 え 事故前もありません。事故後もありません。水分があつたんだ、ということを確認したことはありません。爆発後は保安監督官といつしよにはいりまして、監督官も確認したことはありません。

問 い 多量の炭じんの集積を防止するためには、どのような措置を講じておられたのでしょうか。

答 え 原炭に水分を与えて飛散しないようにすること。それから、石炭が落ちて流水路によつて流されてしまうということが主な対策でございます。

問 い 人的なものとしては、掃除が実行されておりますか。

答 え はい。理由は何でしょうか。あつた程度に水分を含んでおられますし、わずかな炭じんには風化砂岩がまじり合つて危険な状態になるようなものではないことを確認しておりますので、岩粉散布はいたしておりません。

問 い 第一斜坑では、岩粉散布をしておらなかったのでしょうか。

答 え はい。理由は何でしょうか。あつた程度に水分を含んでおられますし、わずかな炭じんには風化砂岩がまじり合つて危険な状態になるようなものではないことを確認しておりますので、岩粉散布はいたしておりません。

問 い 災害発生時の対策としては、どのようなことが考えられておりましたか。

答 え 退避訓練を実施いたしておりました。一般鉱員の人たちは現場の係員の誘導・指導のもとで退避するよう方針をきめておりました。そのほか、係員に対する保安教育、訓練をやり、機構も、

見当違いな原告側の主張

問 い 第一斜坑の機械係に

後はずべて省略しました。